

各 位

会 社 名 ダブル・スコープ株式会社
代表者名 代表取締役社長 崔 元 根
(コード番号 6619 東証プライム)
問合せ先 取締役 大 内 秀 雄
(<https://w-scope.co.jp/ir/contact.html>)

2027 年 1 月期第 2 四半期（中間期）連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2026 年 3 月 19 日に公表しました 2027 年 1 月期の第 2 四半期（中間期）連結業績予想と本日公表の実績値との差異につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想と実績値との差異

2027 年 1 月期第 2 四半期（中間期）連結業績予想と実績値の差異（2026 年 2 月 1 日～2026 年 7 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する中間純利益	1 株当たり 中間純利益
前回発表予想(A)	百万円 3,000	百万円 △1,200	百万円 △2,900	百万円 △2,900	円 銭 △52.55
実績値(B)	1,928	△1,388	△3,091	△3,104	△51.62
増減額(B-A)	△1,071	△188	△191	△204	
増減率(%)	△35.7	—	—	—	
(ご参考)前期中間期実績 (2026 年 1 月期中間期)	1,450	△2,868	△5,412	△5,429	△98.86

2. 差異の理由

2027 年 1 月期第 2 四半期（中間期）の連結業績につきましては、当社の主力市場となっている欧州における EV 向け補助金復活の遅れ等に伴い EV 需要は未だ顕著な増加はみられず、また ESS 向け販売の出荷遅延等により、セパレータ事業の売上高は計画比 968 百万円減少の 1,131 百万円となりました。イオン交換膜事業においては、既存案件での受注が安定的に推移しており、売上高は 103 百万円減少の 796 百万円となりました。以上から、売上高は計画比 1,071 百万円減少の 1,928 百万円となりました。

営業利益につきましては、セパレータ事業における販売量低調による生産数量の減少に伴う機械稼働率の低下による影響があった一方で、引き続きコスト削減による経営合理化を強く推し進めており、イオン交換膜事業における利益率改善等に伴い、計画比 188 百万円減少の△1,388 百万円となりました。

経常利益につきましては、計画比 191 百万円減少の△3,091 百万円となりました。

親会社株主に帰属する中間純利益につきましては、計画比 204 百万円減少の△3,104 百万円となりました。

なお、2027 年 1 月期通期の連結業績予想につきましては、従来の予想を据え置きとしております。これは、セパレータ事業においては、ESS 向け販売においてやや遅れていた韓国内販売も下期以降は加わり、当初計画を上回る出荷量となる見込みとなったことによるものであります。来期以降は EV に代わる主力製品になる見込みであり、その他の新規顧客向け営業案件は、来期以降の取引開始に向けて順調に交渉が進んでおります。イオン交換膜事業においては、既存案件での売上は堅調に推移していく見込みであります。また、新規の複数社と取り組んでいる半導体関連や排水処理などの新規案件も順調に評価プロセスが進められており、これらの案件の一部は、下期から出荷開始の予定で、来期以降の売上高拡大に大きく寄与するものと見込んでいることなどによります。

【業績予想に関する留意事項】

業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

以 上